

### 3 消費地からのホットニュース、トピックス

#### (4) 安さよりも安心感を

北京オリンピックまで丁度1年ということで、中国の今日この頃は賑やかな話題が振りまかれています。その全てが晴れやかな明るい話題ばかりでなく、目を覆いたくなるような暗部もまた数多く報じられています。特に、食に関しては従前から指摘されていた農薬の無秩序な使用など、安全・安心を脅かす問題が度重なって各国からの非難が渦巻いている状況です。

国内産地の端境を補完するために始まった野菜の輸入も、大国中国や東南アジアの安さを強みにした攻勢に外食産業など業務筋の強い需要と相まって、確実な食材供給地として定着して現在に至っています。国産品供給の不安定さが輸入品を利用させ、その定着化が国産品の減少をもたらし、更に輸入品だのみに走るという悪循環となって、消費者は逃げる術もなくもてあそばれているばかりです。また、生鮮品目ばかりでなく、食品製造の分野でも原材料の大半を中国産に依存している（例えば、玄そば）企業も多く、食に関わるほとんどの分野で中国依存のツケが廻って来たとも言えるのではないのでしょうか。

安全安心に関する消費者の想いは確かに強いし、大切にしなければならないのですが、一方では値段の安さを追い求める風潮もまた根強いものがあります。中国産のイメージ悪化が他産地（国）への切り替えを強調されますが、数量・価格の両面から即代替し得るとは限りません。行政面での水際での法的対処のより厳格化を求めることは勿論のことながら、消費する側も安さや手軽さだけでの商品選びではなく、安心できるものをおいしく食べるように考えたいものです。